

聖霊降臨節第23週 聖餐礼拝

2017年11月5日

第一礼拝(午前8:00) 聖餐礼拝(午前10:30~) 夕拝(午後7:30~)

前奏	(新聖歌41)			
聖餐の招詞	司	会	者
※賛美	新聖歌46「わが主よ 今ここに」	—		同
聖書交読	交読文53「ルカの福音書第22章」	—		同
祈	司	会	者
分餐	(新聖歌53)	—		同
感謝の賛美	新聖歌286「シャロンの花」	—		同
聖書朗読	『創世記』19章1-38節(旧約27頁)	司	会	者
黙想	—		同
説教	「家庭は庭のごとく」	近	伸之	牧師
※応答の賛美	新聖歌453「ガリラヤ湖の岸にて」	—		同
感謝の献金	(新聖歌58)	—		同
感謝祈禱	猪爪	和美	姉
諸報告	司	会	者
※頌栄の賛美	新聖歌62「天つみ民も」	—		同
※派遣の賛美	新聖歌54「主の祈り」	—		同
※祝福の祈り	近	伸之	牧師
※後奏	(新聖歌59-4)			

(※印は、からだの不自由な方以外はご起立ください)

第一礼拝	司会：近 伸之牧師 説教	音響：片山 勝三兄 献金：沼田佐代子姉	聖餐準備：担当役員 配餐：担当役員
司集	会：近 伸之牧師 会：笹川 清子姉	映像・音響：片山 浩司兄 説教の録画：近 伸之牧師	C S 担当：佐藤 繁実兄 掃除：笹川 清子姉

説教メモ

1. 「敬和は木を育てるように人を育てる」(二代学長・新井明)。家庭教育も、まさに庭の木を育てるように。
2. ロトは「家族」はいても「家庭」がない。使徒は信仰に熱心でも家庭を顧みない者を戒めた(1テモ5:8)。
3. 神はロトと家族の手を一つに繋ぐ(16)。あわれみはロトの子孫ルツを通してイエスの誕生へ(マタ1:5)。

先週の暗唱聖句

「何事でも神のみこころにかなう願いをするなら、神はその願いを聞いてくださるということ、これこそ神に対する私たちの確信です」
(『ヨハネの手紙 第一』5章14節)

今週の暗唱聖句

「この世と調子を合わせてはいけません。いや、むしろ、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるのかをわきまえ知るために、心の一新によって自分を変えなさい」
(『ローマ人への手紙』12章2節)

(牧師のサイン：)

個人、団体からの来信

2017年11月5日

教団紙「世の光」第806号および「東北宣教」No. 6／宣教区会議開催の公示[11月26日(日)]／「山形からの恵み」Vol. 7およびデブレーション感謝のハガキ／村上教会より、会堂建築NL第2号および「会堂建築献金」のチラシ

先週の集会出席者数

10/29(日)	教会学校	幼児男子1 小学男子— 中学男子— 高校男子— 男児1 成人男性— 幼児女子2 小学女子1 中学女子— 高校女子— 女児3 成人女性1		
	第一礼拝	男2 女5	※月に一回、実用書道教室を開催	
	第二礼拝	男11 女15 計27	10/30(月)	月曜家庭集会 男1 女4
	(子ども)	男児1 女児3	11/1(水)	パルナバ祈禱会 男4 女7
	スペシャルナイト(当教会より、男2名出席)		11/2(木)	しゃべり場タビタ 男— 女4(求1)
			11/3(金・祝)	金曜祈禱会 男1 女3

諸集会のご案内

	※月に一回、実用書道教室を開催		
11/6(月)午後8:00	月曜家庭集会	(休会)	
11/8(水)午後7:30	ネヘミヤ祈禱会	教会堂	司会：横堀 正美兄
11/10(金)午後1:30	しゃべり場タビタ	渡邊智子姉宅	問合せ先：渡邊 智子姉
11/10(金)午後8:00	金曜祈禱会	教会堂	

11/12(日) 聖霊降臨節第24週

第一礼拝 午前8:00	司会：近 伸之牧師 説教	音響：片山 勝三兄 献金：沼田佐代子姉	
教会学校	担当：近 伸之牧師		
第二礼拝 午後10:30	司会：片山 浩司兄 集会：山岸あけみ姉 小山 千春姉	映像・音響：山崎 敬典兄 説教の録画：近 伸之牧師	感謝祈禱：横堀 正美兄 掃除：長谷川睦子姉

礼拝について 『ヨハネの黙示録』3章1-6節

主日の予定	教団一斉防災訓練 北区音楽祭	正午 午後出演	
夕拝	事情により休会		

報告

1. 本日の予定
聖餐礼拝の恵みを感謝します。礼拝後は会堂のために祈るグループ祈禱です。その後に愛餐会、午後は役員会などを行います。
2. 「信仰の眼で読み解く絵画」の委託について
先週、近牧師と共に教団退職金委員会に出席された岡山敦彦先生(大分恵みキリスト教会牧師)より、著書「信仰の眼で読み解く絵画」(I~VI)が委託図書として送られてきました。どうぞお求めください。
3. 先週の来会者
10月29日(日)第二礼拝に細貝竜太くん(敬和高3年)が出席されました。感謝します。

「負ける練習」 村上宣道 (「ライフ・ライン」メッセージ集より)

あれは受け身というものでしょうか。小学校の頃、近所の友だちと一緒に、しばらく柔道のけいこに通ったことがあります。思い起こしてみると、初めのうちは、来る日も来る日も転ぶ練習ばかりさせられていたような気がします。相手と組んでも、相手を倒すよりもまず、倒されたときの上手な転び方を習った記憶があります。上手な転び方、それはけがをしないための練習で、それがまた基本というものであったのかもしれない。

そういえば、相撲のぶつかりげいこなどを見ていても、最初は必ずといっていいほど転ばされています。体中砂にまみれて、転ばされても転ばされてもなおぶつかっていく姿は壮絶なものがあります。実にうまく転ぶなあ、などと感心させられたりもしますが、あれもひとつは、倒されたときにけがをしないための訓練なのでしょう。

『にんげんだもの』で知られる相田みつをさんはこう言っています。

「小さいころから負ける練習をしておけば、成人してから負けに強い人間になれます。失敗してもへこたれないたくましい人間になれるはずです。」

それは「自分の思いどおり、カッコよく勝つことは人生ではごくまれ」なのだから、むしろ「人生の確率の少ない(勝つ)ことに合わせないで、確率の多い(負ける)ほうに合わせておくべきだ」というのです。そのために、小さいころから負ける練

習をしておいたほうがいと勤めているわけです。そういえば、あの柔道の受け身や相撲のぶつかりげいこの転び方などは、その負ける練習のひとつなのかもしれません。

実際には、負けたり、転んだりするのは、ぶざままで決してカッコいいものではありません。誰だって負けたくない、失敗したくないと考えます。しかし大事なものは、英国の詩人であり劇作家であるゴールドスミスが言うように「最大の栄誉は、一度も失敗をしないということではなく、倒れるたびに必ず起き上がること」なのです。

聖書では、パウロという人が「私たちは、四方八方から苦しめられますが、窮することはありません。途方にくれています、行きづまることはありません。倒されますが、滅びません」(『コリント人への手紙 第二』4章8、9節)と言って実例を示しています。なんと、打たれ強いことでしょうか。負けても負けたくないまじさです。

その根拠は、キリストの十字架と復活にあります。人々はキリストの十字架の死を、敗北、失敗と見なしました。しかしキリストは、その敗北と見える死から復活されたのです。そして究極的な勝利を不動のものとされました。ですからこれを信じる者は、負けても負けたくないまじさを身につけることができるのです。


2017年11月5日

週 Weekly Bulletin **報**

Vol. 46/No. 45
(通巻2340号)



泣く吾子を鶏頭の中に泣かせ置く 福永耕二 (1938-1980)
鶏頭は熱帯アジア原産のヒユ科の一年草。九月上旬頃、ピロードのような紅・赤・紅紫・黄・白などの花が咲く。名前の由来は、鶏のとさかを思わせることから。

 **ライフ・ライン** 毎週土曜日 朝5:15~5:45 BSNテレビにて放送中
☆24時間テレホン『でんわ世の光』025(272)3592



11/11(土)「荒波を乗り越えて」村岡泰右さん
静岡県富士宮市在住のキリスト教会の牧師・村岡泰右さんは、1歳の頃に父親の仕事で現在の北朝鮮に移住しました。その後、太平洋戦争が起こり、6歳で終戦を迎えます。ソ連兵の侵攻で生命が危なくなった12月の極寒の中、村岡さん一家は北朝鮮からの脱出を決行し、奇跡的に日本に帰り着くことができました。帰国後、クリスチャンになり、牧師となった村岡さんに当時の思いや出来事について伺います。

Broadcast for Expanding Gospel into Niigata
BEGiN. ここから始まるあなたの伝道。

私たち豊栄キリスト教会は、
『ライフ・ライン』の協力教会です。

2017年度教会目標 **「受けるよりも与えることを」**
「主イエスが自身が、『受けるよりも与えるほうが幸いである』と言われたみことばを思い出すべきことを、私は、万事につけ、あなたがたに示して来たのです」
(『使徒の働き』20章35節)

〒950-3322 新潟県新潟市北区嘉山3-11-15
日本同盟基督教団 新潟山形宣教区
豊栄キリスト教会 (牧師 近伸之)
TEL: 025-387-4934 FAX: 025-250-0155
ホームページ: <http://www.toyosakakyokai.net>
電子メール: info@toyosakakyokai.net
ブログ: <http://toyosakakyokai.seesaa.net>

